

丹後ちりめんの用途拡大に向けた取組

徳本幸紘*
 荻野宏子**
 宮下千津代*
 袖長吟治***
 小松亮介****

丹後ちりめんの用途拡大に向けて、産地の撚糸・製織技術を駆使した素材開発やシルクパジャマ等の試作を行った。またこれらの素材を「ギフト・ショー SOZAI 展」に出展し、産地組合や機業の新たなビジネスの創出を支援した。

1 はじめに

丹後ちりめんは西暦 2020 年に創業 300 年を迎える。歴史、技術の高さ、品種の多さから、近年では海外のデザイナー、バイヤー、理系・服飾系大学等が丹後産地を訪問する機会が増えている。丹後産地にとっては、素材や技術を PR し、用途を拡大させる絶好の契機を迎えている。

そこで本取組では新たな用途として「ベビー用品」や「ホテル」をテーマとして、産地の撚糸・製織技術を駆使した素材開発とシルクパジャマ等の試作を行った。また昨年度の初出展に引き続き、今年度も「ギフト・ショー SOZAI 展」に出展した。丹後産地の素材や技術が持つ可能性を PR し、展示会で出会った相手先と産地組合や機業とのマッチングを行った。

2 実施した内容及び結果

2.1 素材開発

「ベビー用品」や「ホテル」をテーマとし、計 37 点の素材を開発した。主な開発素材の特徴を表 1 に示す。

産地の撚糸、製織、セリシン定着加工、精練技術を組み合わせた「14 デニールジョーゼット×オーガンジー」は JAPAN TEXTILE CONTEST 2018 で優秀賞を受賞した。写真を図 1 に示す。後述のとおり「ギフト・ショー SOZAI 展」で好評を受け、ある産地機業への技術移転に向けて平成 31 年 3 月現在製品化研究を進めている。

表 1 主な開発素材の特徴

番号	素材名	特徴
3001	シルクタオル素材	撚糸と2重織の技術を組み合わせて、吸水性や柔らかい風合いを持たせた素材
3002	ジャカードオーガンジー	地紋と同じ柄をインクジェットプリントしたオーガンジー
3004	シルクパジャマ素材	ジャカード柄と風通組織を組み合わせた柔らかい風合いの素材
3005	広幅錦紗ちりめん	広幅レピア織機で可織性を確認。シーツなど寝具に適した素材。
3009	シルクベビー肌着素材	薄く、柔らかく、ストレッチ性がある素材。生産性や素材の安定性が高い。
3013	14デニールジョーゼット	生糸14中×1本に八丁撚糸をかけた、たて・よこ糸としたジョーゼット
3021	麻ジョーゼット	麻糸への強撚加工を確立し、たて・よこ糸としたジョーゼット
3028	広幅織子ちりめん	変わり三越ちりめんにジャカードを組み合わせ、シボと光沢のある柄を持たせた素材
3037	シルクタオルジャカード	シルクタオル素材にジャカード柄を組み合わせた素材
3041	広幅鬼シボちりめん	通し幅150cmで鬼シボちりめんを製造。幅出しをしないことでストレッチ性を持たせた素材
3045	原着ポリエステルちりめん	原着ポリエステルをたて糸に配列した、先染めストライプのポリエステルちりめん

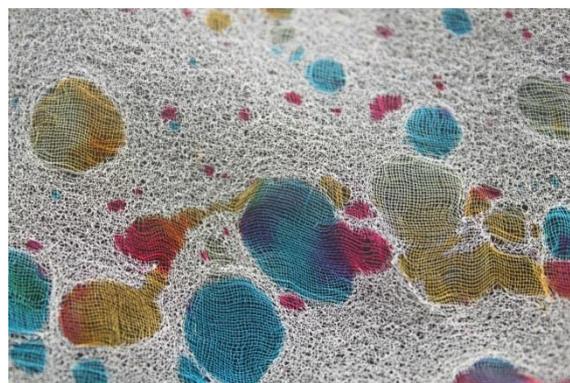


図 1 14 デニールジョーゼット×オーガンジー

また平成 29 年 10 月から開発を開始した「シルクタオル素材」は規格が完成し、丹後織物工業組合に技術移

* 技術支援課 副主査 ** 主査 *** 嘱託 **** 主任

転をした。平成31年3月現在、組合が製造を開始している。また京都府織物・機械金属振興センターでは販路開拓の支援も行っている。この素材は吸水性がもちろんあることに加えて風合いが柔らかく、また家庭洗濯が可能である。そのため当センターとしては図2に示すとおり、おくるみとしての提案も進めている。



図2 シルクタオル素材のおくるみとしての提案

2.2 パジャマ等の試作

シルクタオル素材及びパジャマ素材で、パジャマ、ルームカーディガン、ストールを試作した。

これらは「ギフト・ショー SOZAI 展」に出展した他、地域内のホテルや全国の高級ホテルにリネン製品を納める業者へのプレゼンに活用している。今回はシルクの柔らかな風合いをプレゼンするため、特徴的な素材を選定して試作した。しかし実際の製品化に向けては、その用途に合わせて物性(スナッグ、縫い目強さ、引張強さ等)をコントロールする必要がある。

2.3 ギフト・ショー SOZAI 展への出展

2019年2月12日～15日に東京ビッグサイトで開催された「東京インターナショナル ギフト・ショー 春 2019」の「SOZAI 展」に出展した。ブース名は「京都・丹後の『気持ちいい』テキスタイル」と題して、当センターが開発したジョーゼット、シルクタオル、緞子ちりめん、広幅鬼シボちりめん等を出展した。素材感が来場者に伝わ

りやすいように、布はブース上空から吊して展示した。展示風景を図3に示す。

出展の結果、インテリア、アパレル、染色等のデザイナーや業者から高い評価を受け、丹後織物素材が持つ可能性を十分に確認できた。特に「14 デニールジョーゼット」や後加工の方法を変えた「14 デニールジョーゼット×オーガンジー」は薄く軽いため空気に漂い、好評を得てストールとしての製品化が決定した。その他、全国の高級ホテルにリネン製品を納める業者へのシルクタオル及びパジャマの提案、染色作家への鬼シボちりめんの提案、特殊糸を使用した織物試作など丹後織物の新たな展開が進んだ。



図3 SOZAI 展の展示風景

3 まとめ

本取組を通じて、丹後織物素材が持つ可能性を十分に確認できた。次は産地組合や機業での実際のビジネス創出に向けて、どのような取組を推進するか検討する段階にある。

SOZAI 展は昨年に続き2回目の出展であり、当センターがエッジの効いた素材を開発していることが産地内外で認知されネットワークが広がってきた。公設試験研究機関だからこそ可能な開発試験に留まらないように、産地機業を巻き込んで製品化研究を推進する必要がある。

またこれらの成果は、産地組合や機業にいつでもオープンで活用可能な情報である。当センターとしては広報を強化し、少なくとも新分野への用途拡大に意欲がある事業者には、情報を効果的に届ける必要がある。